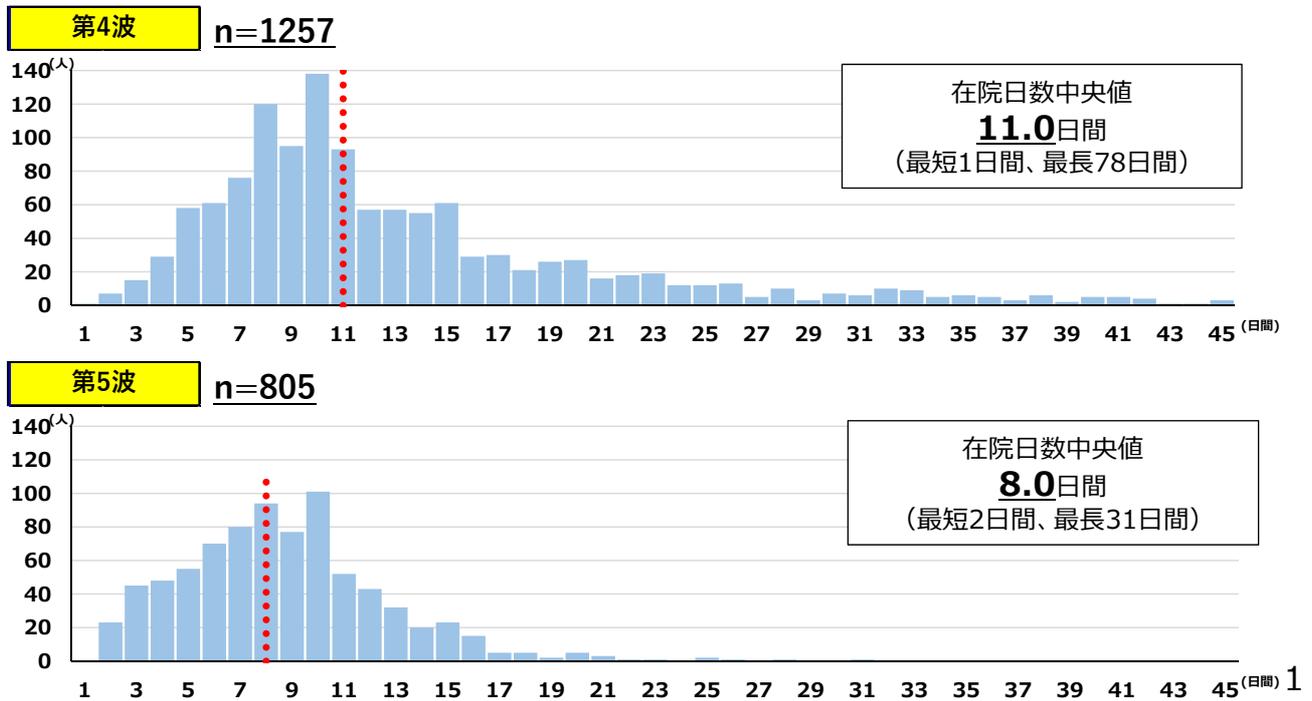
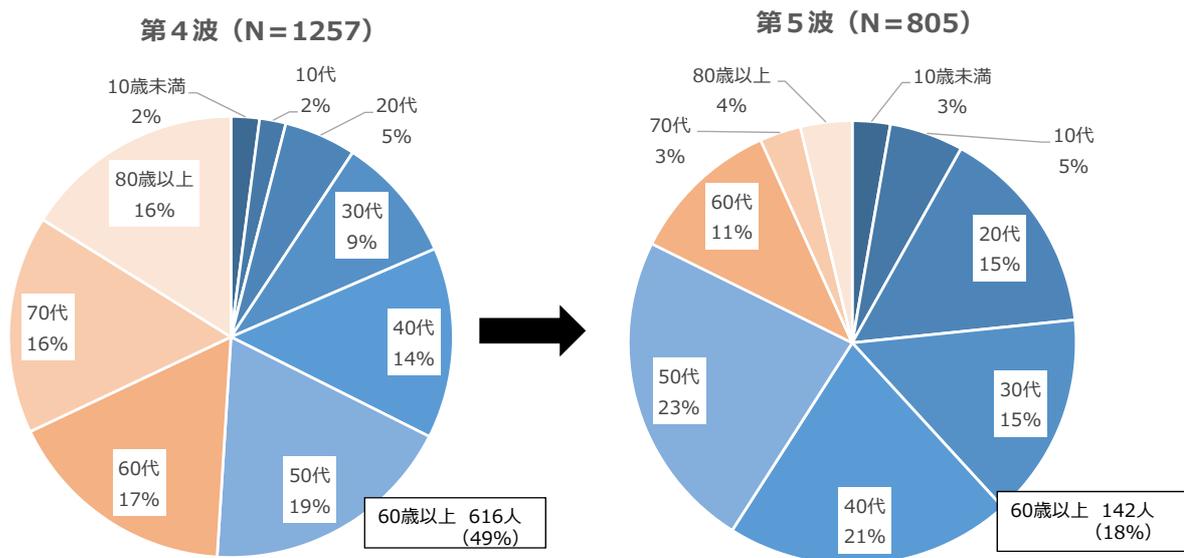


○ 入院日数中央値 第4波 11.0日間

⇒ **第5波（7/1～9/1） 8.0日間**



○要因①：高年齢者の陽性者数減少

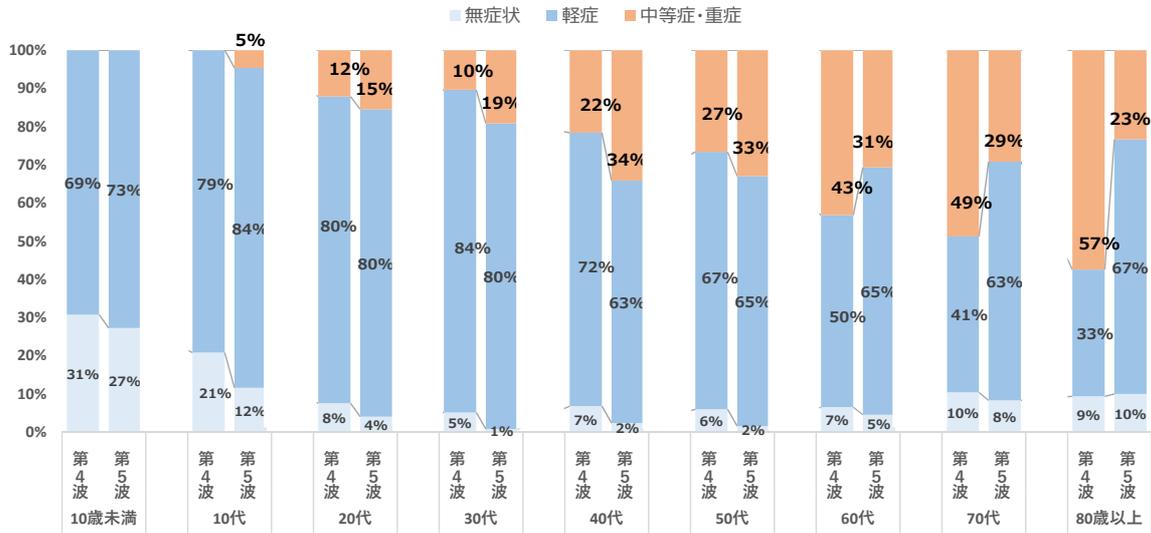


・第5波では、第4波と比べて高齢者（60歳以上）の割合が低い（第4波：49%、第5波：18%）。

・デルタ株の影響もあり未接種の若年者層は陽性者数が増加したが、**ワクチン接種が進んだことにより、高齢者の陽性者数が減少していると考えられる。**

○要因②：入院した高齢者の重症者数が減少

退院者の年代別の重症度（最も症状が重い時点）の割合

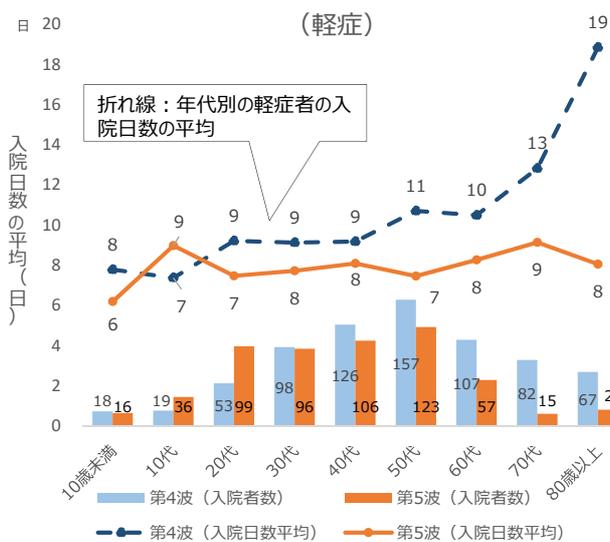


・第5波では、高齢者（60歳以上）の中等症・重症の割合が著しく減少

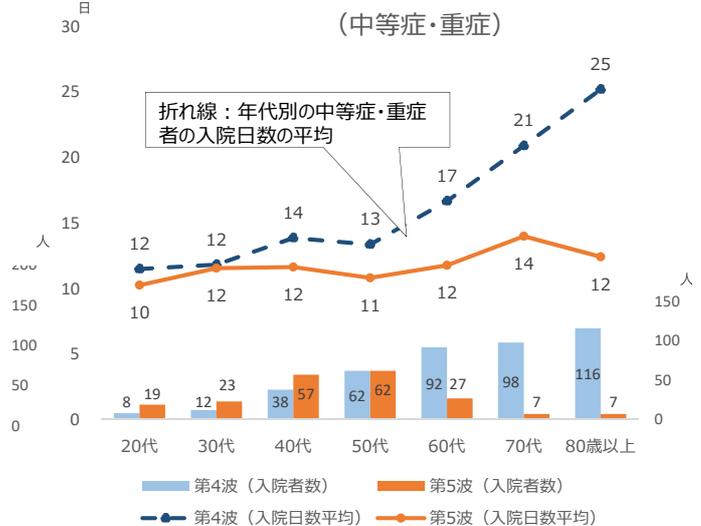
・ワクチン接種が進んだことにより、高齢者の重症化が予防されていると考えられる。

○要因③：入院した高齢者の入院期間の短縮化

退院者の年代別の入院日数の平均と入院者数（軽症）



退院者の年代別の入院日数の平均と入院者数（中等症・重症）

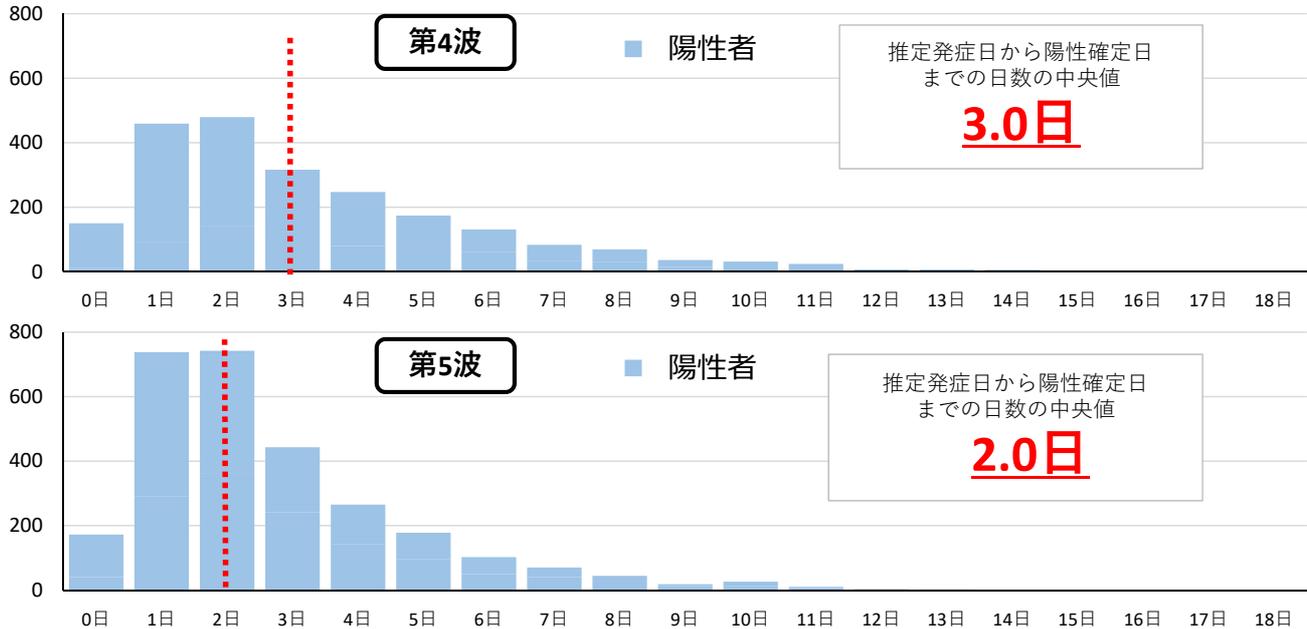


・第5波では、入院日数が年齢にかかわらず横ばいである。**中等症の治療として、ネーザルハイフローやレムデシビル等の治療法が普及したことが入院日数の短縮につながった**と考えられる。

・第4波では施設や院内感染等により感染した高齢者が長期間入院する事例があったが、第5波においてはワクチン接種が進んだことで、こうした事例が減少した。

○要因④：陽性確定までの日数の短縮化

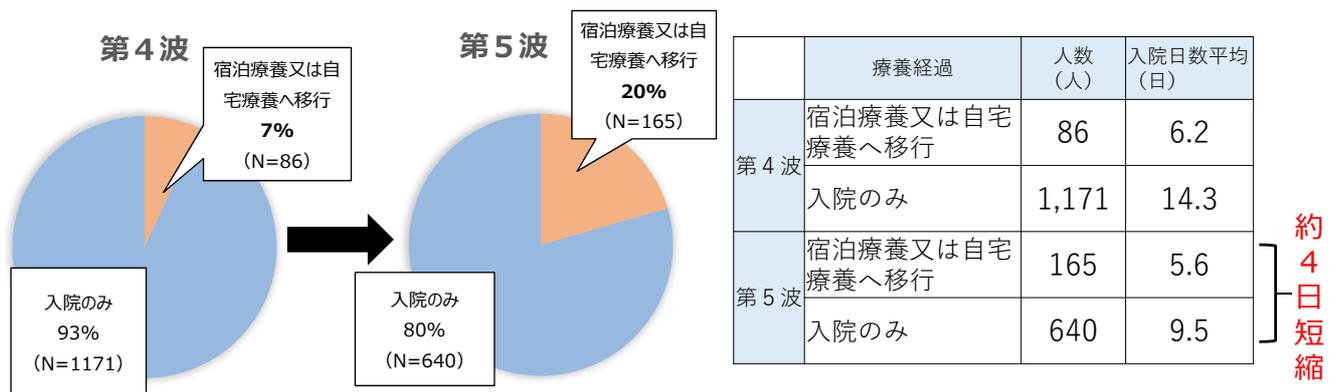
推定発症日から陽性確定日までの日数



・第5波では、推定発症日から陽性確定までに日数が1日短縮

（4波：3日、5波：2日）。早期の治療が可能に。

○要因⑤：症状軽快者が宿泊・自宅療養に切替え



・第5波では、入院後症状が落ち着き**宿泊療養又は自宅療養へ移行した者の割合が増加している。（第4波：7%、第5波：20%）**

・宿泊療養等の入院期間は入院よりも4日程度短く、全体の平均入院日数を押し下げる要因となっていると考えられる。

○ 第4波の特徴

- ・ 高齢者の中等症・重症者（＝平均入院日数が長い）の割合が高い

○ 第5波の特徴

- ・ ワクチン接種等により、高齢者の陽性者が少なく、中等症・重症の割合も低い。また、中等症・重症であっても他の世代と同程度で長期化していない
- ・ ネーザルハイフローの利用など、適切な治療の拡大により入院期間が短期化
- ・ 陽性確定までの日数が短縮し、早期の対応が可能になった
- ・ 軽症者については宿泊療養又は自宅療養への移行の促進

○ 療養者の在院日数が短縮し、病床のひっ迫を回避できたのは、県民の皆さまの早期の受診、医療従事者の皆さまの適切な治療の賜物。皆さまのご協力に改めて感謝申し上げます。

○ 在院日数の短期化にはワクチン接種や早期の医療機関への受診が重要です。未接種の方は接種のご検討をお願いします。また、有症状時には早期に医療機関へご相談をお願いします。